

# 小川未明文学館 館報

vol.17

## 小川未明文学館

新潟県上越市本城町8-30(高田図書館内)  
TEL 025-523-11083  
FAX 025-523-11086

## 小川未明文学館 館報 第17号

2023年(令和5)11月30日発行(年刊)

### 目次

#### 【寄稿】

小椋 裕二氏

「未明生誕140周年記念事業を振り返る」

2

#### 【報告】

未明生誕140周年記念事業報告

4

その他の文学館事業

14

#### 【小川未明文学賞】

17

【ボランティアネットワークだより】

「のぼら」Vol.19

18

【文学館からのお知らせ】

20



### 特別展

小川未明生誕140周年記念展  
—弱き者のために—



## 未明生誕140周年 記念事業を振り返る



小埜 裕二

(上越教育大学教授・  
小川未明文学館専門指導員)

令和4(2022)年度には未明生誕140周年の記念事業が行われた。記念事業の基本方針は、令和2(2020)年冬におおよそ定まっていた。その方針は未明を愛する市民グループ等で構成される小川未明連絡会議で提案・承認されたものである。骨子は次の5点である。

- ① 未明の再評価
- ② 生誕150年を見据えた集団作り
- ③ 各団体の活動取組みに関する総括
- ④ 新しい取組みの拡充
- ⑤ 地域振興

①は過去10年程の未明研究の成果をふまえ、何が分かったのかを整理し、再評価の機運を醸成することを目的とした。②は個人またはグループ単位で未明顕彰を行うのではなく、ネットワークを抜け、協働することでより一層の力を発揮することを目的とした。未明ファンや研究者のすそ野を広げるために、市内関係グループとの連携、市外県外の関係団体との連携、国内外の研究者との連携などに留意しようとした。③は各団体が自己の組織活動の再点検を行い、そのありようを確認することで

活性化を図ることを目的とした。④は各団体が未明生誕140年の周年を機に取組みを拡充させることを目的とした。⑤は人口減少と高齢化が進む地方都市を活性化させるためのビジョンを共有することを目的とした。

以上の方針のもと、小川未明連絡会議では27の事業を企画した。コロナ感染拡大防止のため中止となった1事業(夏休み開催予定であった「子供たちと読む未明童話」)を除き、26事業が実施された。主な新企画は次のとおりである。

- 4月 生誕祭(幸町の生誕の碑前で献花式を行い、講演会等を開催)
- 5月 詩碑・石塔除幕式(幸町の生家跡地に詩碑・石塔を設置)  
未明生家周辺散歩(生家周辺の未明ゆかりの地を案内)
- 7月 未明顕彰フォーラム(前島密・坂口謹一郎・小林古径の顕彰団体を招いて今後の未明顕彰のあり方を協議)
- 10月 未明春日山周辺散歩(春日山周辺の未明ゆかりの地を案内)  
未明生誕140周年記念展(小川家が所蔵する貴重な未明ゆかりの品を展示するとともに、未明文学の全容を資料や写真で紹介する特別展を開催)
- 11月 自由作文コンクール「小川未明」表彰式(優秀作を未明フェスティバルで表彰)  
市民音楽劇「月の明るい夜に」(未明童話の「月」をモチーフにした音楽劇)
- 12月 未明シンポジウム(未明文学に造詣の深い有識者を招き、シンポジウムを開催)
- 2月 未明文学館バックヤードツアー(文学館収蔵庫の貴重資料等を見学するツアー)

他に、毎年恒例の未明フェスティバルを11月に開催、県内小学生対象の読書感想文コンクールの表彰と朗読、市内中学生による「野薔薇」創

作朗読劇、創作フラメンコの公演が行われた。また、小川未明文学館では上記事業の他、こども祭や朗読研修会、童話創作講座、文学館講座、特集展示、未明童話アニメーション上映会等が行われた。さらに高田文化協会刊行の「文芸たかだ」誌では未明に関するエッセイ等が掲載され、表紙には市内高校の美術部生徒による未明ゆかりの絵が飾られた。上越教育大学附属中学校では、「岩手の中学生と郷土の作家の魅力を伝え合おう」「未明作品を劇化しよう」という未明プロジェクトを学年全体で展開、メディアに注目された。

小川未明連絡会議が企画・実施した事業の他にも、未明関連の講演会や講座が生誕140周年にあわせて各地で開催された。また小川未明文学館が開館に際して刊行した図録(2006年)が生誕140周年にあわせて一新され、これまでの未明研究と顕彰が後づけられた。この『小川未明文学館図録 新編小川未明の世界』(2022年10月)には、杉みき子先生の巻頭エッセイの他、宮川健郎氏、小川英晴氏、東雅夫氏、広松由希子氏の各文章が載せられ、新しい研究成果等が資料編の年譜やコラムに反映されている。

未明生誕140周年の記念事業を通じて、未明の童話や小説、発言や行動に込められたメッセージの意味や芸術作品としての質の高さや面白さが伝わり、未明作品を愛する人が増え、未明を愛する人が未明のふるさとを愛し、町づくりや人づくりにつながっていきけば幸いである。

140周年の記念事業の意義としては、市民の多くが未明に関心を寄せて下さったことが挙げられる。生誕祭、除幕式、顕彰フォーラム、市民音楽劇等、新しい取組みはその都度メディアで周知され、報道された。これまで各市民グループがそれぞれ閉じた形で活動を行ってきたが、記念事業では顕彰活動を開いた形で行い、互いに連携しながら大きな事業を展開することができた点も特筆される。

課題としては、未明顕彰の各事業の成果が、県内県外へと大きく波及

するまでにはいたらなかった点が挙げられる。郷土作家への注目が郷土の人の自己満足におわらないよう、顕彰活動の意識は常に外部へ開かれ、広い視野で展開されるよう努めたい。12月に開催したシンポジウムでは、韓国から教授を招き、「韓国における小川未明」について話してもらった。海外の視点は、日本における未明評価を更新させる機会となるとともに、未明文学がユニバーサルな射程をもつことを喚起するであろう。

生誕150周年に向けては、次のことを方針として目指したい。

- ① 研究・研究書・研究者の拡充
- ② 県外・国外愛好者の拡充
- ③ ネットワークの拡充
- ④ 教育プログラムの作成と展開
- ⑤ 中国語訳・韓国語訳等の作品集の刊行
- ⑥ 未明文学のメディアミックス化(音楽やマンガ、絵画、演劇等に)
- ⑦ 生家の再建
- ⑧ 小川未明文学館展示室の拡大
- ⑨ 小川未明新収小説集・随想集の刊行(全集の完備)
- ⑩ 国際シンポジウムの開催
- ⑪ 市をあげての組織的発信

生誕140周年では多くの人の協力を得た。上越市文化振興課の皆さんや小川未明連絡会議の皆さんの熱い想い、理解と協力はなしにはこの記念事業は成功しなかった。先日、小川未明連絡会議は、〈連絡〉より〈連携〉を重視する会へと組織を発展させるため、名称を「日本近代童話の父 小川未明顕彰会」と変え、新組織を発足させた。新事業として始めた生誕祭も、今年2回目の開催を迎えた。生誕140周年に蒔いた種は、大事に育てていかねばならない。未明生誕150周年記念事業に向けて足ぶみをしているひまはない。



## 小川未明生誕140周年記念事業

令和4年度は小川未明が生まれてから140年の記念の年でした。一年を通して、さまざまな団体が、多くのイベントを行いました。



### 特別展

#### 第30回小川未明文学賞展

会期 令和4年4月2日(土)～5月8日(日)  
 会場 小川未明文学館市民ギャラリー  
 主催 小川未明文学館

第30回小川未明文学賞の応募作品553編の中から選ばれた、大賞・優秀賞の受賞者の声とその作品を紹介しました。また、東京の学研ビルで開催された贈呈式の様子、これまでの大賞受賞者とその作品、今回の最終選考まで残った作品の講評、書籍化された第29回大賞受賞作品『屋根に上る』の校正原稿(学研プラス提供)などを紹介しました。入場者数1526人。



### 未明生誕祭

日時 令和4年4月2日(土) 14時～16時  
 会場 未明生家跡地・町家交流館高田小町多目的室  
 主催 小川未明研究会

「未明生誕の地」碑前で献花・献酒を行い、生誕140周年を祝ったほか、未明生家跡地に設置した案内板の紹介、記念スピーチ、記念講演を行いました。  
 第1部 献花式 来賓祝辞・高野恒男氏(幸町町内会長)、献花・高波昭子氏、浅井悠子氏、献酒・丸山澄男氏、河村一美氏。  
 第2部 案内板紹介(未明生家跡地) 案内板紹介…小島清介氏(株小島塗装店代表)。  
 第3部 記念スピーチ・丸山澄男氏、伊藤笑心氏(上教大附属中1年)。記念講演…「ふるさとが与えたもの」小笠裕二氏。参加者数43人



## 詩碑・石塔除幕式と未明生家周辺散歩

日時 令和4年5月7日(土) 14時～16時

会場 未明生家跡地及び生家周辺

主催 小川未明研究会

未明生誕140周年を記念し、未明生誕の地の旧畑地に、新たに建立した詩碑並びに東京都高円寺の未明旧居地から移築した石塔の除幕式と、未明生家周辺散歩を行いました。詩碑に刻んだ文字は未明自身の手蹟による「弱き者の為に立ち 代弁なき者のために起つ 我これを藝術の信條となす」。未明生家周辺散歩では、当時の関係資料や未明の文章を集めた資料を配布し、生家の配置や未明が通った私塾、遊んだ鐘樓等を案内しました。

第1部 詩碑・石塔除幕式 除幕・来賓祝辞・中川幹太上越市長、小川英晴氏(詩人・小川未明令孫)、高野恒男氏(幸町町内会長)、小島清介氏(株小島塗装店代表、石塔保管者)。

第2部 未明生家周辺散歩 案内・解説・小埜裕二氏。参加者数40人。



## 小川未明文学館こども祭

日時 令和4年5月14日(土) 10時～16時

会場 小川未明文学館

主催 小川未明文学館

子どもたちに未明童話や文学館に親んでもらうため、こども祭を開催しました。

テーマを「小川未明生誕140周年」とし、未明とふるさと上越のかかわりに関するクイズに答えたり、文学館で配布している未明童話冊子を綴じるための表紙作りをしたりして楽しんでいました。

また、普段は入ることのできない「未明の部屋」で、自作の丸眼鏡をかけて羽織を着、ペンを持って未明になりきって写真撮影。その場で写真をプレゼントしました。参加者数122人。



## 上越教育大学附属中学校 未明プロジェクト

令和4年6月、11月

上越教育大学附属中学校

6月には「岩手の中学生と郷土の作家の魅力を伝え合おう」のテーマのもと、岩手大学教育学部附属中学校の生徒とオンラインで結び、小川未明と宮沢賢治の童話の魅力をそれぞれが伝え合う活動を行いました。11月には「未明作品を劇化しよう」のテーマのもと、未明の「野薔薇」を生徒たちが脚色し、朗読劇にする活動をしました。そのうち有志グループが未明フェスティバルで自らの朗読劇を披露しました。上越教育大学附属中学校の取組みが評価され、自由作文コンクール「小川未明」の特別賞を、プロジェクトを進めた岩船尚貴教諭と草間啓教諭が受賞しました。



## 小川未明研究会オーブンデー

1 回目…令和4年6月4日(土) 14時～16時  
2 回目…令和4年11月5日(土) 14時～16時

会場 町家交流館高田小町多目的室  
主催 小川未明研究会

小川未明研究会は未明生誕140周年を記念し、多くの市民に未明文学の面白さと意義を知ってもらうため、研究会を一般公開し、2回にわたってテーマを定め、分かりやすく解説しました。1回目のテーマは、「弱き者の為に起ち」。未明が生きた時代や未明の生い立ち等を踏まえ、弱い者に寄り添おうとした未明文学の特徴を解説。参加者数26人。2回目のテーマは「童話「初夏の空で笑う女」を読む」。若い女性の自由と自立を描いた未明童話を解説。参加者数24人。講師は2回とも小笠裕二氏。



## 朗読研修会

1 回目…令和4年6月25日(土) 14時～16時  
2 回目…令和4年7月9日(土) 14時～16時  
3 回目…令和4年7月16日(土) 14時～16時30分

会場 高田城址公園オーレンプラザ研修室  
主催 小川未明文学館

橘由貴氏(朗読療法士・ヴォイスアーティスト)を講師に、朗読研修会を開催しました。はじめに基本的な声の作り方や表現力の磨き方、発声練習の大切さを学び、「聴き手の心に届く朗読をするには」という講義に耳を傾けました。次に発声練習や開口訓練を行い、その後、未明童話「黒い人と赤いそり」(大正11年)を題材にした実践的な朗読で、講師から個々に指導を受けました。また、講師の朗読を聴き、受講者の今後の朗読練習の参考にしました。受講者数27人。



## 自由作文コンクール

募集期間 令和4年7月1日(金)～9月19日(月・祝)  
主催 小川未明研究会

未明童話を読んだ思い出、未明の人となりや作品に対する考え、未明文学の意義、ウィズコロナと未明童話、未明と地域振興、今後の未明顕彰活動への提案など、「小川未明」に関する自由作文を、インターネットを通じて全国に募集しました。大賞1名、優秀賞3名、入選22名。小川未明フェスティバルで表彰を行い、大賞・優秀賞受賞者が自作を朗読しました。受賞作品は「小川未明生誕140周年記念 自由作文コンクール「小川未明」受賞作文集」として、小川未明文学館ホームページで読むことができます。応募総数233作品。上越市のみならず、全国各地から応募がありました。







童話創作講座

1 回目…令和4年7月24日(日) 14時～16時  
 2 回目…令和4年8月27日(土) 14時～16時  
 3 回目…令和4年8月28日(日) 10時～12時  
 会場 高田図書館第1会議室  
 主催 小川未明文学館

佐々木赫子氏(児童文学作家)を講師に、短編童話の書き方を学びました。

1 回目の講座では、事前に受講者が創作した童話について講師からアドバイスをいただきました。2 回目・3 回目の講座では、アドバイスを受け手直した作品の講評をいただき、さらに、受講者同士でお互いの作品について意見を交換しあい、今後の創作の参考にしました。受講者数11人。

子どもたちと読む未明童話

日時 令和4年8月6日(土)、8月13日(土)  
 会場 町家交流館高田小町  
 主催 小川未明研究会

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止  
 子どもたちとその保護者を対象に、夏休み期間中、未明童話に親しむ会を開催。1 回目は未明の人となりや童話の特徴について分かりやすく解説し、2 回目は令和4年度の未明フェスティバルのテーマである「黒い人と赤いそり」について話し合いを行い、読書感想文を書いてもらうという計画でした。

特別講演会

「未明と香り〜春日山の春蘭を巡って〜」

日時 令和4年8月6日(土) 14時～16時  
 会場 町家交流館高田小町多目的室  
 主催 小川未明研究会

未明作品の魅力の一つである、色や音、香りの豊かな表現について、その源泉となるものを未明が幼少期・青年期を過ごした上越市の風景から探りました。講師・早稲田大学講師 宮崎薫氏。参加者数42人。



小川未明童話集 大越さとみひとり語り

日時 令和4年8月27日(土) 14時～  
 会場 高田まちかど交流館ホール  
 主催 高田文化協会

読み聞かせサークル ワンダーランドの大越さとみさんは、軽やかな池田真喜さんのピアノに身を委ねるように、一語一語丁寧に聴衆に語りかけてくれました。「赤い天蓋」「砂漠の町とサフラン酒」は共に大正時代、未明絶頂期と思われるように私たちを惹きつけてくれます。知らない世界に導いてくれる未明の魅力が発揮された語りでした。「うらしま太郎」は終戦後すぐに書かれたもので、戦地から戻った人々の気持ちとも読み取れました。参加者数80人。

小川未明の心を語る―生と死を見つめて―

日時 令和4年9月23日(金・祝) 14時～  
 会場 町家交流館高田小町多目的室  
 主催 高田文化協会

長男と長女の死によってもたらされた悲痛の思いは、生と死を見つめ続けた未明文学の原点とされます。読み語り・篠田澄明さんは、今回三つの作品を選ばれました。「幸福の罅」「稚児ヶ淵」「兄の声」の三作とも、生と死を見つめた小川未明の心のあらわれではないでしょうか。死を深く感じることで、生というものを貪欲に感じとった未明。まさに未明文学の原点です。参加者数60人。



『文芸たかだ』表紙

主催 高田文化協会

市内の高等学校美術部の生徒が描いた未明童話が、一年間にわたり6冊の『文芸たかだ』の表紙を飾りました。

また、「小川未明の思い出」と題し、6人の方の随筆が連載されました



第379号 高田北城高等学校 美術部



第380号 上越総合技術高等学校 美術部

第381号 関根学園高等学校 美術部



第382号 高田商業高等学校 美術部



第383号 上越高等学校 美術部



第384号 高田高等学校 美術部



上越教育大学公開講座

「生誕140周年・小川未明文学の再発見」

- 1回目…令和4年9月3日(土) 14時～16時
- 2回目…令和4年9月17日(土) 14時～16時
- 3回目…令和4年9月24日(土) 14時～16時

会場 町家交流館高田小町多目的室  
主催 上越教育大学

童話作家宣言前後と日中戦争前後、及び太平洋戦争終結前後の3期の未明文学の特徴を、「未明文学の不变と可変」という観点から明らかにしようとした3回連続の公開講座。講師…上越教育大学教授 小笠裕二氏。受講者数11人。

未明春日山周辺散歩

日時 令和4年10月1日(土) 14時～16時

会場 春日山神社

主催 小川未明研究会

未明が15歳から19歳まで暮らした春日山神社を中心に、「雲の如く」の詩碑や父母の霊碑、未明記念室など春日山神社及びその周辺の未明ゆかりの地の見学会を開催しました。案内は、春日山神社宮司の風間常樹彦氏と小笠裕二氏。未明春日山周辺散歩では、当時の関係資料や未明の文章を集めた資料を配布し、春日山時代の未明の生活の様子や焼失前の当時の社務所の配置、未明が学校に通った道、未明が使った井戸の場所、未明記念室の所蔵品の説明等も行いました。参加者数20人。

## 小川未明生誕140周年記念展

—弱き者のために—

会期 令和4年10月8日(土)～12月25日(日)  
 会場 小川未明文学館市民ギャラリー  
 主催 小川未明文学館

📖生誕140周年を記念して、未明の生涯と業績を、最新の研究成果を交えながら遺品や書籍・写真等とともに紹介しました。入場者数4345人。

第1章 高田での暮らし—幼少年期—  
 未明が明治15年(1882)4月に新潟県中頸城郡高田五分一三町に生まれてから、19歳で上京するまでを紹介しました。



第2章 作家生活の始まり—苦難の時代—

未明は東京専門学校文科(翌年、早稲田大学と改称)に入学し、恩師坪内逍遙と出会って教えを受けます。在学中に小説家としてデビューしますが、自然主義隆盛の時代に未明の小説は評価されず、生活は困窮を極めました。そんな中、明治43年に日本初の近代童話集『赤い船』を出版しました。



第3章 転機の訪れと活躍—アナキズムの時代—

大正の初め頃、未明は人生の悲哀や社会の矛盾は宿命ではなく、社会構造の問題であると考えるようになります。相次いで長男・長女を病気で失い、未明は亡くなった子どもたちの命の分まで生きようとするかのように文学活動や社会活動に励みました。



第4章 童話作家宣言以後—昭和時代—

大正15年に『童話作家宣言』をした未明は、のちに郊外の高円寺へ転居します。未明は、自然に触れる機会が多くなった自身の子どもの日常に眼を注ぎ、そこから触発されるものに新たな童話のモチーフを見出していきました。

昭和27年、70歳の古稀こき記念に揮こごうした「弱き者の為に立ち 代辨なき者のために起つ 我これを芸術の信條となす」は、生涯にわたる未明の思想でした。自分の信じる道を正直に人間らしく歩んだ未明の精神は、今も生きています。



また、関連イベントとして10月23日(日)、未明ポランティアネットワークの協力による特別展おはなし会を開催し、19人の方からご参加いただきました。

## 文学館講座

第1回…令和4年10月16日(日)  
 第2回…令和4年10月30日(日)  
 第3回…令和4年11月20日(日)

いずれも14時～15時30分

会場 高田城址公園オーレンプラザ研修室  
 主催 小川未明文学館

📖未明や作品について学ぶ講座を開催しました。  
 第1回 「小川未明童話における〈異世界〉―フォー  
 クロアの要素について」

講師 道合裕基氏(龍谷大学深草図書館)

未明作品を比較文学から見、未明童話を読み解く上での民俗学・人類学の視点を導入することの有効性をわかりやすくお話しいただきました。



文学館講座第1回

第2回 「生誕126年の宮沢賢治」

講師 牛崎敏哉氏(宮沢賢治記念館学芸員)

宮沢賢治記念館における賢治顕彰活動の事例等をお話しいただきました。また、賢治の詩を、すばらしい

美声で情感を込めて朗読してくださいました。



文学館講座第2回

第3回 「アナキズム童話と戦争童話と戦後童話」

講師 小笠裕二氏(上越教育大学教授、小川未明文学館専門指導員)

未明文学の3つの時期、1. 大正15年の童話作家宣言前後、2. 昭和12年の日中戦争後、3. 昭和20年の太平洋戦争後、それぞれの課題を、童話を通してお示しいただきました。参加者数延べ86人。



文学館講座第3回

## 小川未明フェスティバル2022

### 「黒い人と赤いそり」

日時 令和4年11月26日(土) 14時～17時  
 会場 上越文化会館中ホール  
 主催 上越文化会館

📖「黒い人と赤いそり」をテーマに様々なプログラムを通して小川未明童話の世界を表現しました。県内小学生を対象とした読書感想文、一般市民を対象に全国から募集した未明に関する論文の表彰を行い、受賞者による感想文・論文の発表を行いました。続いて小笠裕二氏による講評と講演、上越教育大学附属中学校有志による朗読劇「野ばら」、同校の間山理咲氏による「黒い人と赤いそり」の朗読を行いました。エンディングはフラメンコ舞踊団アルティソレラによる「黒い人と赤いそり」の創作フラメンコで幕を閉じました。未明作品がたくさんの人に読まれ、広がり、その世界に親しんでもらえるよう、今後も活動を継続していきます。

入場者数138人。



朗読劇「野ばら」





「黒い人と赤いそり」フラメンコ

### 未明童話の世界を感じよう

日時 令和4年11月26日(土) 12時〜17時  
 会場 上越文化会館ロビー・市民サロン  
 主催 小川未明連絡会議

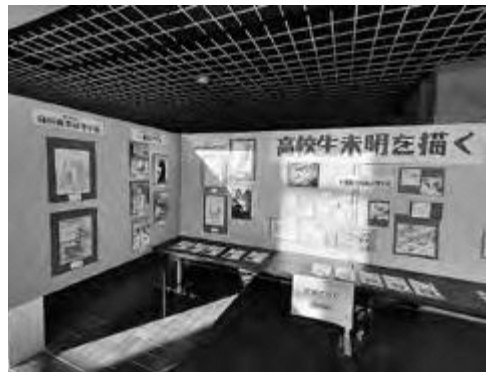
「小川未明フェスティバル2022」の開催にあわせて、小川未明連絡会議構成団体による合同イベントを行いました。

ロビーでは、高田文化協会が市内の高等学校美術部に募集した『文芸たかだ』表紙に応募されたイラスト、未明ボランティアネットワークが調べた市内の未明関連の像や碑の紹介ポスター、「出張小川未明文学館」として、未明紹介パネルやフェスティバルのテーマである「黒い人と赤いそり」の解説パネルの展示を行いました。

また、小川未明研究会（小埜裕二氏主宰）によるT

シャツやクリアファイルなどの未明オリジナルグッズの販売がありました。

未明ボランティアネットワークは、「黒い人と赤いそり」のパネルシアターを3回上演したほか、未明童話の手作り小冊子の配布を行いました。



### 市民音楽劇「月の明るい夜に」

日時 令和4年11月27日(日) 14時〜15時  
 会場 上越文化会館大ホール  
 主催 上越文化会館

7月にオーディションを行い、41名の市民が参加しました。「月の明るい夜に」は小川未明と、病床に就いている娘との会話と共に物語が進んでいきます。「月と山兔」「月夜と眼鏡」「月とあざらし」「赤い蠟燭と人魚」の順に未明作品を紡いでいく音楽劇となりました。約4カ月間ほぼ毎週の稽古の成果もあり、「市民で作られたとは思えないほどすばらしかった」という声が多く聞かれました。

脚本は劇団四季やデイズニー映画などで活躍している高橋知伽江氏、演出はご自身で役者もされている兵頭祐香氏、音楽はレインドロップスによる生演奏。照明・音響ともに一流のスタッフ陣による演出効果も加わり、美しい未明の世界を創り上げました。入場者数697人。





## 未明生誕140周年記念シンポジウム

日時 令和4年12月17日(土) 13時～16時

会場 高田城址公園オーレンンプラザホール

主催 小川未明連絡会議

令和4年10月刊行の新編小川未明文学館図録の成果発表、海外の視点から未明作品を捉えた発表、生誕150周年に向けた顕彰と研究の方向性について話し合うシンポジウムを開催しました。

第1部 「新編小川未明文学館図録の成果」(図録執筆者による執筆内容の説明) 小椋裕二氏(小川未明文学館専門指導員)、宮川健郎氏(児童文学研究者、小川英晴氏(小川未明令孫)、東雅夫氏(アンソロジースト)、広松由希子氏(絵本研究家)。

第2部 「小川未明・海外の視点」(海外での未明作品の受け入れられ方等の説明) 関戸菜々子氏(金沢大学大学院生)、崔蓮姫氏(韓国釜慶大学教授)。

第3部 「シンポジウム―10年後の未明研究と顕彰―」(未明文学の現状と課題、生誕150周年に向けた顕彰と研究の方向性等に関するシンポジウム) 司会…小椋裕二氏、パネリスト…宮川健郎氏、小川英晴氏、東雅夫氏、広松由希子氏。参加者数72人。

**未明生誕140周年記念シンポジウム**

令和4(2022)年度、上野のふるさと文学会が主催する、小川未明の生誕140周年を記念して、本誌の10月号に「未明文学館図録」の成果発表と、海外の視点から未明作品を捉えた発表、生誕150周年に向けた顕彰と研究の方向性等に関するシンポジウムを開催します。

○日 時:12月17日(土)13:00～16:20(開場 13:30)  
○場 所:オーレンンプラザ ホール(1階)高田城址公園

**プログラム**

開会・全編者挨拶 13:00～13:15 司 小川未明文学館 館長 小椋 裕二  
上野市長 中野 勉

**第1部 新編小川未明文学館図録の成果** 13:15～14:15 6,71分

- 1 図録の概観と内容  
小椋 裕二(小川未明文学館専門指導員、上野大学大学院)
- 2 海外の視点―小川未明の海外での評価―  
関戸 菜々子(金沢大学大学院生、京都府立大学大学院)
- 3 小川未明の海外研究  
小川 英晴氏(70人、小川未明会)
- 4 海外研究の現状と課題  
崔 蓮姫氏(韓国釜慶大学)
- 5 海外研究の今後の展望―「小川未明研究」の発展―  
東 雅夫氏(小川未明令孫)

休憩 14:15～14:30

**第2部 小川未明・海外の視点** 14:30～15:15 46:20分

- 1 「海外の視点」―海外での未明作品の受け入れられ方等の説明―  
関戸 菜々子(金沢大学大学院生)
- 2 海外研究の現状と課題  
崔 蓮姫氏(韓国釜慶大学)

休憩 15:15～15:30

**第3部 シンポジウム―10年後の未明研究と顕彰―** 15:30～16:20 50:00分

司会 小椋 裕二  
パネリスト 宮川 健郎氏、小川 英晴氏、東 雅夫氏、広松 由希子氏

開会 小椋 裕二

○問い合わせ先:小川未明文学館、小川未明研究会(0126)616163  
○主催:小川未明研究会、小川未明連絡会議、上野市



## 未明童話アニメーション上映会

会期 令和5年1月4日(水)～1月15日(日)  
 会場 小川未明文学館ビッグブックシアター  
 主催 小川未明文学館

🎬 生誕140周年を記念して、これまで制作・公開されてきた未明童話のアニメーションの中から、「野ばら」「月夜と眼鏡」「島の暮れ方の話」「二度と通らない旅人」「眠い町」を上映しました。



『島の暮れ方の話』平成23年 スタジオトゥインクル



『眠い町』令和4年 スタジオトゥインクル

## 小川未明文学館バックヤードツアー

日時 令和5年2月11日(土・祝) 14時～15時  
 会場 小川未明文学館  
 主催 小川未明文学館

🎬 生誕140周年を記念して、文学館の活動をより深く知ってもらうため、バックヤードツアーを行いました。普段は立ち入ることのできない資料保管庫の見学や、文学館が所蔵する貴重な資料を間近で見てくださいました。参加者数8人。



## その他の文学館事業

### 小川未明文学館図録『新編 小川未明の世界』

🎬 新たな視点から見た小川未明の生涯や業績、及び小川未明文学館を紹介する図録を発行しました。

小川未明の世界

「小川未明とわたし」

杉 みき子氏

「弱き者の為に立ち 代弁なき者のために起つ」

―未明の生涯と作品―

小埜 裕二氏

「未明の消息―小川未明と現代児童文学―」

「小川未明の詩の世界」

宮川 健郎氏

「番神岬に陽は落ちて」

小川 英晴氏

「視覚化された未明作品「赤い蠟燭と人魚」に見る変遷」

東 雅夫氏

資料編  
 小川未明文学館案内  
 小川未明文学館所蔵品紹介  
 小川未明文学館の歩み  
 小川未明年譜  
 小川未明ブックヒストリー  
 未明の郷土じょうえつマップ  
 広松由希子氏

発行日 令和4年10月31日(月)

販売価格 1500円

監修 小川 英晴氏、小埜 裕二氏



## 特集展示

📖 これまで小川未明文学館では、未明に関する作品や書籍、関連資料など、さまざまな資料を収集してきました。これらの所蔵資料を活用した特集展示(テーマ展示)を定期的に開催することにより、小川未明の作品や業績、人となりについて紹介しています。

### 特集展示1

#### 新収蔵品展 — 令和3年度収集資料 —

会期 令和4年4月22日(金)～7月20日(水)  
会場 小川未明文学館常設展示場

📖 令和3年度に新たに収蔵した資料の中から、未明の初出童話が掲載された絵雑誌や、未明自筆のはがきなどを紹介しました。早稲田大学時代からの友人に宛てたはがきは、未明の交友関係を知る上で貴重な資料です。未明がその時どこに住み、どこに旅し、何を考えていたかを知ることができます。



## 特集展示2

### 黒い人と赤い櫛

会期 令和4年7月22日(金)～10月26日(水)  
会場 小川未明文学館常設展示場

📖 令和4年で発表から100年を迎え、県内小学生対象の「小川未明童話作文コンクール」のテーマでもあった未明童話「黒い人と赤い櫛」。童話が書かれた時の未明の状況や童話の世界観などを、絵や写真を用いて展示しました。



## 特集展示3

### 100年前の未明

会期 令和4年10月28日(金)～令和5年1月18日(水)  
会場 文学館常設展示場

📖 100年前、大正11年40歳の未明が、どのような思いでどんな作品を書いたのか紹介しました。一年間で22編の小説・詩、56編の感想・アンケート、27編の童話を発表し、多くの芸術家と交流した年でした。

## 特集展示4

### ふしぎ?こわい?未明のおはなし

会期 令和5年1月26日(木)～4月19日(水)  
会場 小川未明文学館常設展示場

📖 未明の書いた小説や童話の中から、不思議なお話しやちよつと怖いお話しを紹介。絵本や全集で気軽に手に取れるものを集めました。



「小川未明肖像」柳敬助/画  
大正11年



## 文学館おはなし会

日時 毎月第2・4日曜日 14時〜  
 会場 小川未明文学館ビッグブックシアター  
 参加者 延べ187人

未明童話の魅力を伝えるため、未明ボランティアネットワークの協力により未明童話を中心としたおはなし会を20回開催しました。

## 出張おはなし会

未明童話に出会う機会をより多くの方に提供するため、未明ボランティアネットワークの協力により、市内の小学校に朗読ボランティアが出向いて、おはなし会を開催しました。

令和4年度は、市内小学校15校（755人）、放課後児童クラブ9か所（185人）を訪問しました。



宝田小学校

## こどもプログラム 未明童話と親しもう

### こどもたちに届けたい未明のメッセージ

未明童話といえは「赤い蠟燭と人魚」「月夜と眼鏡」など有名ですが、このほかにも素晴らしい童話が多くあります。これらを子どもたちに読んでもらうために、月替わりで未明童話1作品を冊子にして無償配布しました。配布作品は、幼児から小学校の低学年向けの童話が中心となっています。参加者にはおはなしカードを配布し、集めたシール数に応じて、文学館オリジナルグッズをプレゼントしました。令和4年度は、延べ692人に冊子を配布しました。

#### 〈配布童話〉

- ・4月「かくれんぼ」  
 (初出「カクレンボ」『コクミン一年生』昭和16年4月)
- ・5月「田うえ」  
 (初出「田植」『コドモアサヒ』昭和10年6月)
- ・6月「星まつりがちかづきました」  
 (初出「ホシ祭ガチカヅキマシタ」『コドモアサヒ』昭和9年7月)
- ・7月「夕立と子すずめ」  
 (初収録「ユウダチトコスズメ」『小豚の旅』昭和10年5月)
- ・8月「おうまのゆめ」  
 (初出「オウマノユメ」『コドモアサヒ』昭和6年10月)
- ・9月「なかないきりぎりす」  
 (初出「ナカナイキリギリス」『コドモノクニ』昭和8年9月)
- ・10月「かりゅうどとくま」  
 (初出「カリウドトクマ」『家の光』昭和14年10月)

・11月「からすのやくそく」  
 (初収録「童話と随筆」昭和9年9月)

・12月「赤いちょうちんの話」  
 (初出「アカイチャウチンノ話」『コドモノクニ』昭和9年2月)

・1月「きょうだいののねずみ」  
 (初出「兄弟ノ野ネズミ」『コドモノヒカリ』昭和12年1月)

・2月「ゆきだるまとおほしさま」  
 (初収録「雪ダルマトオホシサマ」『未明カタカナ童話読本』昭和11年3月)

・3月「山のふくろう」  
 (初出「山の梟」『スキー』昭和15年3月)

・11月「かくれんぼ」  
 (初出「カクレンボ」『コクミン一年生』昭和16年4月)

## 未明童話のぬり絵

文学館の「出会いのロビー」では、数種類の未明童話のぬり絵をご用意しています。小さなお子さんから高校生・大人の方まで、大勢の方に楽しんでいただいています。ぬった絵はロビーの掲示板に展示しています。



# 小川未明文学賞

小川未明文学賞は、日本児童文学の父といわれる上越市出身の小川未明の文学精神「人間愛と正義感」を次代に継承するため、1991年（平成3）に創設されました。子どもたちの心に夢と希望を育むような鮮烈な児童文学作品を募集しています。

2022年度で第31回を迎え、これまでに延べ1万5千百編を超える作品が国内外から寄せられました。

大賞作品は単行本で刊行され、多くの子どもたちに読まれています。



第31回小川未明文学賞贈呈式

## 第31回小川未明文学賞大賞受賞

有本 綾さん

大賞作品「小さな僕のメロディ」



息子が小さいころ、誕生日プレゼントにと息子が主人公の絵本を描いて贈りました。厚紙を張り合わせて、マジックペンと色鉛筆で描いた素朴な作品でした。

それをととても喜んでくれたので、また次の年も描きました。その翌年には次男も登場するお話になりました。私がお話を作るのは、子どもたちが喜ぶ顔を見たい、というのがきっかけでした。今、小学生になった息子たちは、コロナで制限の多い毎日を送っています。そんな中で、子どもたちが自分の好きなことを見つけてのびのびと過ごせる日々を願って、お話を書こうと思い立ちました。主人公の海斗がピアノを通して様々な人と出会って出会うって少しずつ変わっていきます。そんな小さな変化こそが面白いし素晴らしい。子どもたちにはたくさんのお話を通して変化を楽しみながら大きくなって

ほしいと思います（もちろん大人も）。

ずっと読者として物語に出会ってきた私が、このような素晴らしい賞をいただき、自分の物語を誰かに読んでもらう機会をいただけたこと、光栄に思います。このお話が誰かの小さな出会いの一つになることができたらうれしいです。

## 第31回小川未明文学賞優秀賞受賞

藤江 洋一さん

優秀賞作品「それでええんや」



この度は小川未明文学賞という素晴らしい賞をいただき、思いがけない名誉に驚くとともに大変嬉しく思っています。

賞をいただいた作品をご覧になった方々の中には、「この作品はちょっとふざけ過ぎではないか」と思われる方もおられると思います。確かに表面的にはそんな印象を与えてしまう作品です。主人公の悩みも大人から見れば取るに足らない些細なことですが、子どもにとっては

一大事です。その一大事をどうやって解決すればいいのか、主人公は真剣に模索し、答えを得ようとします。やがて、答えは思いがけないところから訪れます。

その瞬間、主人公はひとつ成長したのです。子どもの頃の些細な悩みというのは大人になるとすっかり忘れてしまうか、どうでもよいことと思うようになってしましますが、どんなに些細なことであっても、すべての子どもにとって初めて経験することは大事件であって、それを次から次に乗り越えて子どもは大人になっていくのです。

今回の作品は一文一文、楽しみながら書いたものです。読み手の子どもたちにもその楽しさが伝わると思います。ありがとうございます。

\*小川未明文学賞についての詳細は、小川未明文学館ホームページをご覧ください。だくか、左記にお問い合わせください。

応募・お問い合わせ先

〒943 8601 新潟県上越市木田1-1-3

上越市文化振興課

「小川未明文学賞係」

TEL 095-520-5028

FAX 095-520-5053

E-mail: mimei@city.joetsu.lg.jp



## 出張おはなし会



グループ空【中郷小学校 8月30日】

未明の略歴の説明や、「野ばら」などの作品に真剣に聴き入り、現代に通じるテーマだと感想を述べてくれました。深く理解しようとする姿に、感激しました。



お話の会うさぎ【保倉小学校 11月25日】

パネルシアターで「三匹のあり」「黒い人と赤いそり」、OHCで「野ばら」を、5・6年生に聞いてもらいました。おはなしだけでなく、パネルの作り方などにも興味津々で、楽しい時間でした。



### シャープの会

【北諏訪小学校放課後児童クラブ 8月8日】

「赤いろうそくと人魚」などをおはなししました。低・中学年が中心の子ども達でしたが、最後まで身のり出して聞いてくれました。

## 未明童話の世界を感じよう

11月26日（土）



「小川未明フェスティバル2022」の関連イベントで、フェスティバルのテーマである、「黒い人と赤いそり」をパネルシアターで楽しんでもらいました。未明童話の小冊子プレゼントも好評でした。

会場：上越文化会館市民サロン

（お話の会うさぎ）

## 研修会

7月20日（水）



小川未明と相馬御風の関係について知るため、糸魚川市を訪ねました。相馬御風記念館、相馬御風宅では、多くの資料や文人との交流に感動しました。

未明夫妻が糸魚川を訪問したときのことを御風は「この盟友との二十三年目の会談は感激に終始した」と記しており、中学時代から生涯にわたっての友人であった二人の、交流の深さを知ることができた研修会でした。

（未明童話の会）

出張おはなし会、  
上越市文化振興課  
会員加入の連絡先

上越市木田1-1-3  
電話 025-520-5853  
FAX 025-520-5853

# のばら

vol.19

発行：未明ボランティアネットワーク  
発行日：2023年11月30日

未明ボランティアネットワークだより

令和4年度  
の活動

- ・小川未明文学館おはなし会…全20回、延べ参加者187人
- ・出張おはなし会（市内小学校、放課後児童クラブ）…24か所、940人
- ・特別展おはなし会（文学館出合いのロビー）…参加者19人
- ・会員の研修会（研修旅行 糸魚川市）

## 特別展おはなし会 10月23日（日）



### 作品名

- ① 「三匹のあり」
- ② 「ものぐさじじいの来世」
- ③ 「山の上の木と雲の話」
- ④ 「野ばら」

### 担当グループ

- お話の会うさぎ  
シャーフの会  
グループ空  
未明童話の会



## 文学館おはなし会 毎月第2・第4日曜日 14時～



### シャーフの会 11月27日

「しいの実」「月とあざらし」  
などのおはなしをしました。  
「しいの実」の絵は、昨年亡く  
なった元メンバーの方が描いて  
くれたものです。子どもたちが  
静かに聞いてくれました。

## ● お知らせ ●

### 小川未明関係資料の収集について ご協力をお願い

小川未明文学館では、未明に関する文学資料の収集を行っています。下記の資料に関する情報をお持ちの方は、ご連絡くださいますようお願いいたします。資料の寄贈については、特定の場合（すでに複数点を所蔵している資料等）を除きお受けしますので、ご不明の点はお問合せいただくと幸いです。

#### 【主な収集資料】

##### 1. 特別資料

小川未明原稿、書簡、遺品、その他自筆資料（短冊・書軸等）、写真（オリジナル）、小川未明関係者資料（未明書簡、献本など）

##### 2. 図書

未明作品集（未明生前・没後刊行図書）、全集・選集（未明作品を一部所蔵した資料も含む）、初出雑誌（未明作品掲載）、未明作品の外国語訳、絵本・紙芝居

##### 3. 参考資料

未明に関する研究論文、エッセイ、記事（雑誌・新聞等）

## 令和5年度 小川未明文学館カレンダー

5月13日㊥ 小川未明文学館こども祭

6～7月 朗読研修会  
6月17日㊥・6月24日㊥・7月1日㊥

10～12月 山福朱実原画・吉田延絵画展  
会期：10月7日㊥～12月24日㊥

第32回小川未明文学賞募集締切  
10月31日㊥

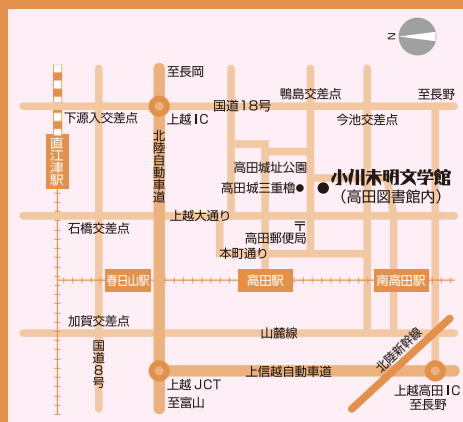
10～11月 文学館講座  
10月21日㊥・10月28日㊥・11月18日㊥

11月12日㊥ 未明ゆかりの地モニターツアー

3月27日㊥ 第32回小川未明文学賞贈呈式（東京都）

未明ボランティアネットワークによるおはなし会  
\*毎月第2・4日曜日の午後2時から文学館にて実施  
\*学校等での出張おはなし会を随時実施

◆ 問合せ  
〒943-0835  
新潟県上越市本城町8-30（高田図書館内）  
TEL 025-523-1083  
FAX 025-523-1086  
URL <https://www.city.foetsu.niigata.jp>



◆ 入館料 無料

◆ 休館日  
毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）・  
祝日の翌日・館内整理日（毎月第3木曜）・  
資料整理期間・年末年始（12/29～1/3）

◆ 開館時間  
火・金曜日 午前10時から午後7時  
（6～9月は午後8時まで）  
土・日、祝日 午前10時から午後6時  
※詳しくはお問合せください

### 小川未明文学館 利用案内

発行 上越市文化振興課

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3 / TEL. 025-520-5628 / FAX. 025-520-5853